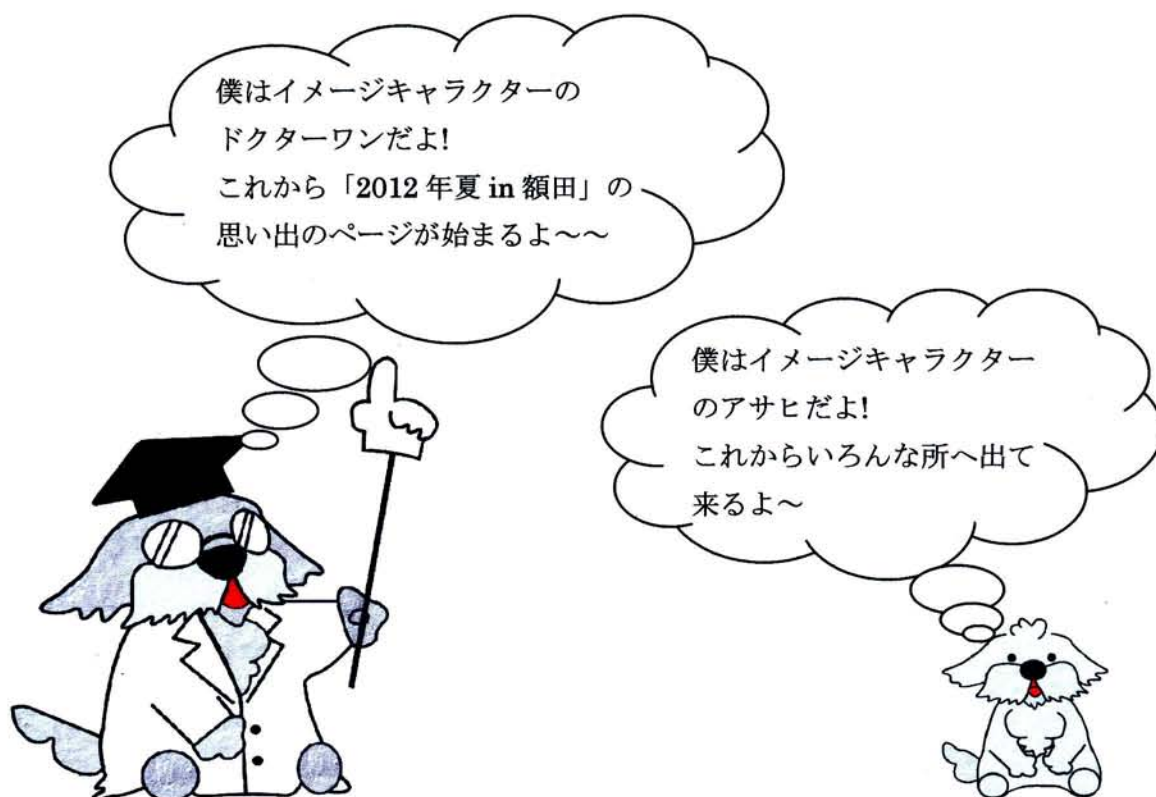




もくじ

1. はじめに	p. 1
2. 写真で振り返る台日交流 2012	p. 2
3. 参加者リスト	p. 3
4. 日程	p. 4
5. 活動報告	p. 5
6. 感想 ～活動を通して～	p.21



～はじめに～

今回の夏の交流は、なにかがこれまでと大幅に違った。

コンビニはもちろん、自動販売機もない。クーラーもない。
夜は街灯もなく真っ暗。緑多い大自然に囲まれた額田の地。

そこにはなにがあったのか？

ひとつ屋根の下で、みんなでいろんなことを語り合った囲炉裏部屋。
生えている竹を切ることから始めて作った流しそうめん。
つたないながらも竹刀を振り、剣の道・人の道を学んだ剣道教室。
試行錯誤しながら石を積んだ、猪垣。
普段入らない山の斜面で木を切り、間伐について学んだこと。
人生の先輩方からのお話。
ご住職一家との交流。
星の綺麗さ、多さに感動した夜空。

活動のどんな場面に於いても、心洗われる自然の豊かさと、そこに暮らす人々の心の温かさがあった。

これまでの人生の中でここまで「自然」と「人」を強く感じるものがあっただろうか。

参加したメンバーも皆きっと「自然」と「人の温かさ」に感謝をしつつ、この交流を過ごしていたことだろう。

この交流で得たことや感じたりしたことは、次回の交流のみならず、その後の個々の人生にも何らかの影響を与えるのではないかと、言っても良いぐらいの多くの経験をする事ができたと思う。

By 2012 夏 台日交流 リーダー
しんぷる (澤田 貴哉)

2. 写真で振りかえる台湾交流 2012

少林禅寺



剣道教室ボランティアの皆様と



世代間交流「朗進大学」の皆様と



「万足平を考える会」の皆様と猪垣保全



流し素麺



いろり部屋



座禅体験～少林禅寺にて



「みまもり隊」の皆様と間伐体験



住職ファミリーと



セントレアお見送り



再会を約束して…



キーパーソン「北川先生」



3. 参加者リスト

○ 人間環境大学

学年	呼び名	性別	氏名
4年	ひらっち	男	平野 正好
4年	よしき	男	山内 良記
4年	ピーター	男	藤城 拓己
3年	しんぷる	男	澤田 貴哉
3年	わっこ	女	宮崎 和子
1年	まい	女	山口 まい
1年	アトム	男	山田 大貴
1年	カカ	女	範 佳

○ 九州産業大学

学年	呼び名	性別	氏名
3年	ふみか	女	多久島 文香

○ 東京女子大学

学年	呼び名	性別	氏名
2年	ヘンリー	女	河西 茜
2年	うえ	女	植本 早紀子

○ 桃山学院大学

学年	呼び名	性別	氏名
4年	ゆい	女	盧 沛餘

○ 東海大学

学年	呼び名	性別	氏名
1年	こくけん	男	鄭 國權
1年	ビッキー	女	王 筱惟
1年	みい	女	鄭 明怡
1年	天	女	施 筑萱
1年	マニー	女	卓 雅鈴
1年	アオイ	女	鄧 冠好
1年	シバ	女	蔡 成臻
1年	みなみ	女	林 雨璇
1年	淳子	女	張 育淳

○ 教員

学校	呼び名	性別	氏名
人間環境大学	QP 先生	女	文野 峯子
人間環境大学	はなちゃん先生	女	花井しおり
東海大学	せっちゃん先生	女	工藤 節子
東海大学	アサヒパパ先生	男	松永 稔也
愛知大学	梅ちゃん先生	女	梅田 康子

4. 日程

	8/16 (木)	8/17 (金)	8/18 (土)	8/19 (日)	8/20 (月)	8/21 (火)	8/22 (水)	8/23 (木)			
7			朝食&清掃	朝食&清掃	朝食&清掃	朝食&清掃	朝食& 清掃				
8				移動							
9			全員で活動 準備	万足平を考 える会 活動参加	グループ MT	発表準備	本宿駅に て解散 台湾学生 は名古屋 へ				
10											
11			歓迎会準備	グループ MT	みまもり隊 活動参加	世代間交流			発表会		
12										昼食	昼食
13						夕食準備			移動&夕食 準備	夕食&住職 ファミリー との懇談	送別会
14											
15	15 時 40 分 台湾 学生 セン トレ ア着	歓迎会準備	夕食準備	移動&夕食 準備	夕食&住職 ファミリー との懇談	送別会準備	見送り				
16								夕食準備	夕食	全体 MT	
17			オリエンテ ーション	夕食&移動	夕食	全体 MT		送別会			
18			歓迎会								
19				剣道教室	全体 MT	グループ MT&入浴		入浴&荷物 整理			
20			座禅体験						全体 MT	グループ MT&入浴	片づけ
21			グループ MT&入浴	全体 MT	グループ MT&入浴	グループ MT&入浴		入浴&荷物 整理			
22									グループ MT&入浴		
23			消灯	消灯	消灯	消灯		消灯			

5. 活動報告 「生きがいの在り処」グループ

〈調査の動機〉

今回の交流活動では、額田に住む方々のご好意によって、様々な体験活動をさせていただくことができる。そこで、ふと思いついた。「様々な世界で生きる人たちの“生きがい”とは何だろうか。」「生きがい」というものをこれまで真剣に考えたことがなかったため、この“生きがい”について調べてみることにした。

辞書で“生きがい”を調べれば、「生きるに値するもの。生きていく張りあいや喜び」とある。ならば、それらは一体、どのようなことに感じ、どのようなものに見出すのか。このようなことを、額田に住む人に「あなたの生きがいは何ですか？」と伺いながら、同時に、日本・中国・台湾の人がそれぞれ思う“生きがい”についても調査することにした。また、若者と大人の感じる生きがいは大きく異なるのではと考えたため、その点についても調査する。

最終的には、自分たちなりに“生きがい”の定義を考えることを目標とする。

〈メンバー〉

人間環境大学

しんぶる・まい・カカ

東京女子大学

ヘンリー

東海大学

みい・天

〈結果〉

調査の結果、分かったことが3つある。

①どの国の人も、生きがいの内容は、

若者→「自分に関係すること。」 大人→「自分以外に関係すること。」

②大人になり、生きがいの内容が自分以外に移っても、回りまわって自分に返ってくる。

(例)「子供の成長」が生きがい＝自分自身の幸せ

③自分が「これが私の生きがいだ。」と思えるものなら何でも良い。

内容が変わっても、その時々“今”の自分にとって、日々生きていくことのエネルギー源になるものなら、それは「生きがい」と言って良いのではないかな？

〈考察〉

どの国の人も、調査した結果、生きがいの内容（在り処）とその変化は一緒に、自分に関係すること（例：いろんなアルバイトをして経験を得ること）から自分以外に関係すること（例：家族の幸福）となっており、そして、成長しても自分自身の幸せには変わらないことが分かった。

辞書で調べる生きがいの意味では、何か難しく、生きがいというものがより分からなくなってしまっていたが、様々な人に直接「あなたの生きがいは何ですか。」と伺っていく中で、生きがいとは、その人の日常や人生に密着したものであり、その人が生きる上での糧であり、エネルギー源であるということが分かった。自分の周りを見て、生きがいを探してみるのも良いかもしれない。

活動内容

9/17	a. m.	日本人学生集合→少林禅寺へ！
	p. m.	台湾人学生合流→歓迎会
	感想	今日は活動の初めての日です。初めて日本に来た、とてもうれしいです！日本のことは全部おもしろいね！きれいな家やうまい食べ物が好きです。日本の人も優しいですね！でも、初めてほかの人と一緒に風呂に入って、ちょっと変な感じでした (天)
9/18	a. m.	流しそうめん！
	p. m.	グループ MT→剣道教室
	感想	今日は午前中にみんなで流し素麺をしました！朝早くから、竹を切り、みんなてきぱき動いて素晴らしい！大成功でした！ 剣道教室では、子供達や親御さん、先生たちと歓談しながら、さまざまな質問をさせていただきました。台湾の学生が積極的に質問しているのが印象的でした。 (ヘンリー)
9/19	a. m.	「万足平を考える会」を考える会 活動参加
	p. m.	「みまもり隊」活動参加
	感想	朝の活動は猪垣材料保全です。そして石を積む時に石が重くて大きいですから、みんなが大変でした。午後の間伐体験は初めて木を切りますから、とてもむづかしいと思います。 でもこんな経験は新しいことですから、楽しいね。 (ミイ)
9/20	a. m.	グループ MT
	p. m.	世代間交流→住職ファミリーとの懇談
	感想	世代間交流では、お年寄りの方々のお話から、皆さんの額田に対する「愛」がとてもよく伝わってきました。BBQでは、みんなテンションが高く、料理も美味しかったです。みんなと一緒に楽しめる時間は楽しく、過ぎていってほしくないと感じました。 (まい)
9/21	a. m.	発表準備
	p. m.	発表→送別会
	感想	初めてみんなの前で発表するので、緊張した。今回交流会に手伝ってくれた先生達は発表会に参加した。みんな一生懸命自分の感想を皆様に伝えた。本当に感謝の気持ちをいっぱい持った。みんな疲れたけれども、本当に活動の中でたくさん体験をして、経験を学んだ。 来年の交流会も参加したい、もっと多く経験を学びたい。みんなお疲れ様へ。 (カカ)
9/22	a. m.	清掃！→解散！
	感想	朝起きてから、清掃をし、本宿駅で解散するまで、最後まで、今回の交流メンバーの意識の高さには驚きました。 リーダーとしてかなりの不足があったと思いますが、今回の交流に携わったすべての人に助けられました。 ありがとうございました。 (しんぷる)

何するの？

額田で暮らす様々な人には、様々な
「生きがい」があるだろう。

・・・生きがいってなんだろう？



「生きがい」を辞書で調べる！

「生きるに値するもの。」

「生きていく張りあいや喜び。」

うーん・・・。難しい・・・。

何するの？ 其二

じゃあ、それらは

「どのようなものに見つける？」

「どんなことに感じる？」

「若者」と「大人」の「生きがい」は大きく違うのでは・・・？

何するの？ 其三

インタビューキーワードは・・・

「あなたの生きがいは何ですか？」

そして、自分たちなりに、
「生きがい」を解釈してみよう！

思ったこと①

～内容～

生きがいの内容は、主に、

若者→「自分自身」

大人→「自分以外」

思ったこと②

～回りまわって～

生きがいの内容が、
自分以外に移っても、
回りまわって、自分に返ってくる。

例) 子供の成長→自分自身の幸せ。

思ったこと③

～自分たちなりの～

自分が「これが私の生きがいだ。」
と、思えるものなら何でも良い。



内容が変わっても、
その時々“今”の自分にとって、
日々生きていくことのエネルギー源になる
ものなら、それは「生きがい」と言って
良いのではないかな？

生きがいの在り処 グループ



天・カカ・ヘンリー・
みい・まい・しんぷる



「万足平を考える会」インタビュー



剣道教室の子供達と



世代間交流



間伐体験

「ボランティア」グループ

〈調査の動機〉

日本には昔、ボランティアという言葉もそれに相当する意味をもつ言葉も無かった。それは日本にはボランティアという言葉が必要なかったからではないだろうか。このグループでは「なぜボランティアが必要か」というテーマで家族にスポットを当てた調査をしていく。主にお年寄りにアンケート、インタビューを行い、今と昔の違いを探る。

〈メンバー〉

人間環境大学

よしき・アトム

東海大学

こくけん・ビッキー

桃山学院大学

ゆい

〈結果〉

・現在

介護サービスや介護施設自体はとても便利なものとされていて利用には抵抗が無いことがわかった。また費用も自分で用意している。

その理由として自分の子供や家族に迷惑を掛けたくないというのが一番多かった。家族とは別居している場合が多く、学校や職場が近くに無いなどが理由として挙げた。

・昔

親の面倒を見るのは子供の役目とされていたり、近所同士で助け合いが「向こう三軒両隣」という言葉が生まれるほどに盛んであった。家族構成もほとんどが3世代、兄弟も6人以上が普通だった。

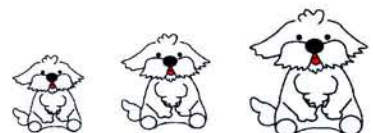
〈考察〉

「ボランティア」という言葉がなかった時代は、近所で助け合いが行われるのが普通だった。

現代では 近所で助け合うどころか、近所付き合いそのものが失われ、やがてボランティアという言葉が日本に浸透していったのではないだろうか。

ボランティアには人を助ける役割の他に、昔あった「近所付き合いのようなコミュニティを作る役割や、またそこから更にコミュニティが根付くことによる地域の過疎化を止めるなどの役割があることがわかった。

ボランティアも大事であるが昔のような近所付き合いや家族も大事なのではないだろうか。



活動内容

9/17	a.m.	日本人学生集合→少林禅寺へ！
	p.m.	台湾人学生合流→歓迎会
	感想	今日はとても楽しかったです。皆が一所懸命頑張って準備していました。特にわっこさん、うえ様、まいさんとヘンリーさんが料理を準備した、何でも美味しかったです。台日キャンプで皆とあえて、超超超超超超超超超超超面白かったです。 By こくけん
9/18	a.m.	竹を切って流し素麺の台を作ってみんなで食べた！！！！
	p.m.	剣道教室で素振りの練習とお話！！
	感想	流し素麺をする時、役割の分担がよく、楽しくできました。男性は力仕事の竹を切る事、女性はやすりがけに一生懸命でした。剣道では、すごい勢いがあって僕は泣きそうになりました。子供たちの明るさにまた、泣きそうになりました。 By アトム
9/19	a.m.	猪垣についての勉強・猪垣の修復体験！！
	p.m.	間伐体験で木を切る！！
	感想	今日は猪垣のやり方が難しいと思いました。ボランティアする方は猪垣を守るために、天気が悪くても行くのは大変です。そして間伐の体験もしました。最初は自分ができないと思いました。皆と一緒にやって木を切りました。面白かったです。 By ビッキー
9/20	a.m.	世代間交流でお年寄りと昼食&お話！
	p.m.	お寺家族との交流でBBQ！！
	感想	お年寄りと聞いていたのですが、会ってみると元気な人達ばかりで驚きました。作った冷やし中華も量は多めだった筈なのにペロリと食べてしまうほどの若さをお持ちでした。 BBQ中にお坊さんにならないかと住職さんから誘われてまた驚きました（笑） By よしき
9/21	a.m.	発表準備
	p.m.	発表会・送別会
	感想	今回の発表会は前と違って、少林寺の中で行いました。近所の人たちやお世話になった人たちも来てくれました。人いっぱいいたから発表する時は本当に緊張していました。みんなの発表を聞いて、PPTを見て、いろいろなことを知りました！特に初めて参加した後輩たちはとても頑張ったと思いました！素晴らしい発表会でした！来年の交流活動も頑張しましょう！ By ゆい
9/22	a.m.	お寺のお掃除！
	p.m.	解散後名古屋観光！
	感想	あっという間に終わってしまったな、と思った一日でした。活動では色んなことを沢山して、色んな人とお話をして思い出が沢山の額田を去るときはどこか寂しかったような気がします。 名古屋ではスイーツパラダイスでお疲れ様パーティー！ By よしき

インタビューの内容

- ・ 介護を受ける場合、介護する人は誰になると思いますか？
- ・ 介護にかかるお金はどこから出すと思いますか？
- ・ 介護をしたことはありますか？
- ・ 昔の家族構成は何ですか？
- ・ 昔の近所付き合いについて
- ・ 同居してる家族は？

よしき（剣道）



学校の部活とはまた違った、武道の世界を見ることができた気がしました。その厳しく張り詰めた空気も練習が終われば一変して子供は子供らしく、大人も練習中の雰囲気とはかけ離れたフランクさになったりと驚かされました。特に印象に残っているのは子供たちです。大人の練習に必死に食らいついてる時も休憩中も、彼らの目はきらきらと輝いていました。

こけん（猪垣）

こんなところは本当にゆっくり守らなければならない。体験した時はいっぱい壊れすぎところが見える。それは本当に大変です。こんなところが古い者の文化だね。その時代のストーリーや生活の方法や自然が猪垣から見えるんだから、こんな文化財は本当に守らなければなりませんね。



まとめ・考察

護、介護施設自体はとても便利なものとされていて利用に介抵抗が無い。お金も自分で用意。

→別居している家族に迷惑を掛けたくない

（一番良いのは、健康をずっと保つ事）

地元から人が減ったことにより近所付き合いが減って助け合いも減ってしまった

ビッキー（間伐）

19日に参加した間伐の活動は、皆でかしないように木を切って、楽しかったです。それはいい思い出になりました。みまもり隊の皆は、森の自然のために、お金を全然もらわなくても、一生懸命に守っています。ボランティアが本気でやりたいのは大切なものだと思います。



やい（お年寄り）



今回の交流で、お年寄りの人々と話ができ、本当にいい経験になったと思います。彼らにはとても元気で、勉強したり、社会貢献したり、自分ができることは他人に頼まなくて、できるだけ全部自分がやります。それをきいたら、私が自分の周り、住んでいるところにもっと関心をもって、もっと頑張らないといけないと思いました。

まとめ・考察

・ボランティアにはこうした今では少なくなりました。近所付き合いに似たコミュニティを作る役割

・コミュニティができることにより町の過疎化を防ぐ役割がある。

ボランティアも素晴らしいが本来の**家族**。**地域の付き合い**が大切

人に頼ろうとしない（強く生きすぎな）弱い人を周りの人が助けてあげられるようになれば...

アトム（お寺）

お坊さんになぜお坊さんになったのかを聞きました。弟と伯父が死んでしまって悩んでいた時に、お寺の老僧に「私があなたの師匠になってあげる」と言われたそうです。それがきっかけでお坊さんになったそうです。僕も人生を覚えていけるような人と多く出金いたいと思っています。なので台湾交流とかの活動を沢山していきたいと改めて思いました。



ボランティアグループ

ボランティア
グループ



お年寄りとの交流!



猪垣修復!!



バアッ!

剣道体験!

グサッ!



「剣道と精神教育」グループ

＜調査動機＞

現在、多くの子供たちが引きこもりや、いじめなど精神的な部分で問題が多く出てきている。

その中で、剣道の持つ、精神的な訓えが子供の心の成長にどのように影響しており、どんな教育が必要なのかを明らかにしたかったため

＜メンバー＞

人間環境大学

ピーター

九州産業大学

ふみか

東海大学

みなみ・シバ

＜結果＞

様々な質問をした結果、多くの方が言葉を使って子供に何かを教えるより、常に大人が子供の見本になるように態度で示すことが必要だとわかった。

＜考察＞

剣道教室に限らず、異なる世代の人たちが心を通してふれあえる「場」が子供を含めすべての人々にとって精神の成長につながる。



活動内容

9/17	a.m.	日本人学生集合→少林禅寺へ！
	p.m.	台湾人学生集合→少林禅寺へ→歓迎会
	感想	今日は電車の切符が高いし、荷物重いし、山がきれいだが、一杯あるのが大変だと思います。でもみんなはとても優しいし、イケメンと美人……。座禅は時間が長いし、足も痛い、いい体験になりました。明日も皆でがんばります。 (シバ)
9/18	a.m.	流しそうめん作り
	p.m.	剣道教室
	感想	今日のそうめんはおもしろかった、そして、とてもおいしい。私は初めてそうめんを食べました。夜ご飯を準備する前に、たくさんの雲が山の上にありました。 それから、雨の降る中剣道教室に行きました。(^^)剣道教室に子供と先生たちが大勢いました。インダビュウのとき、沢山精神的なアイデアを子供と先生たちに聞き、とても勉強になりました。 (みなみ)
9/19	a.m.	猪垣体験
	p.m.	間伐体験
	感想	猪垣の石は手のひら大でも結構な重さがあり、猪垣が胸の高さまである場所だととても大変でした。田畑を守るために古くから人々が苦勞してきたことを肌で感じました。 午後の間伐体験では体調を崩し、休んでいたの活動に参加できず残念でした。 (ふみか)
9/20	a.m.	世代間交流
	p.m.	バーベキュー
	感想	今日の世代間交流は日ごろ接することの少ない人生の先輩方に人生に関する様々なことを聞くことができ、新鮮さと共に自分の無知さを知ることが出来ました。 夜のバーベキューでは飲めや食えや、の大騒ぎでしたが、ご住職がタバコに火をつけているのを見て親近感を覚えた今日この頃でした。(ピーター)
9/21	a.m.	発表
	p.m.	送別会
	感想	とうとうやってまいりました！！発表会！！グループ一同、全力で発表にのぞみましたそして、少林寺での最後の夜をみんなで楽しみ、語り合いながら一生の思い出になるように騒ぎ倒しました！！ 時間が過ぎるのが早い、そう思う一日でした。(ピーター)
9/22	a.m.	荷造り
	感想	グループごとにチェキで写真を撮りました。複製できない世界に1枚だけの写真なので大切にしたいと思います。 台湾学生とは23日にお別れだけど、日本学生とはこの日でお別れなのでさみしかったです。またみんなに会いたいです。 (ふみか)



調査・質問内容



調査内容

剣道の精神的教えが子供の心の成長にどのように影響しているのか

質問内容

1. 剣道をはじめたことでどんな精神的成長をしましたか。
2. 今の子供や若者にはどんな精神的教育が必要ですか。
3. どんな大人に育ってほしいですか。
4. 人生の中でどんな精神が必要だと思いますか。



結果



- ・ 剣道をやって精神的に成長したこと...

我慢強さ、協調性、度胸がついた
あいさつ、返事、人見知りがなおった
礼儀作法、リーダーシップ、責任感



結果

どんな大人になってほしいか...



- ⇒ ルールを守り人に迷惑をかけない
人の痛みが分かる優しさをもってほしい



結果

- ・ どんな精神的教育が必要だと思うか...

- ⇒ 口で教えるより、態度で示す！
大人が子供たちの見本となるように
意識して行動することが大切

- ・ どんな精神が必要だと思うか...

- ⇒ 協調性、コミュニケーション力



考察

- ・ 剣道教室に限らず、異なる世代の人たちが
ふれあえる「場」が子供を含めすべての人にと
って精神の成長につながる。



剣道と精神教育 グループ



みなみ

ふみか

シバ

ピータ



グループミーティング中



たこ焼き！



質問できるかな!?



発表会だ！
やってやるぜえ！

「寺と地域の関わり」グループ

〈調査の動機〉

現代の日本のお坊さんは、一般企業に勤めているなど、昔と比べて生活スタイルが変わってきている。それに伴い、今と昔では、寺と地域の関係も変わってきているのではないかと感じた。

それを確かめる為に、額田という地域で、寺と地域の関係について調査した。

〈メンバー〉

人間環境大学

ひらっち・わっこ

東京女子大学

うえ

東海大学

マニー・アオイ・淳子

〈結果〉

今回の活動を通じて分かったことは、額田という地域は、伝統を受け継ぎながら、年中行事などを通じて寺と関わっているということだった。

また、昔と比べると信仰心が薄れてきていると住職からお話を伺うこともできた。特に、昔の若い人に比べると、今の若い人は寺に来る事が殆ど無いということだった。実際、剣道教室の少年達からは、「剣道の合宿で泊まった」だとか、「家族が行く時についていって、お菓子をもらう」という場合でのみ、生活と寺が関わっていることが確認できた。

〈考察〉

今回の調査では、現代の日本では、昔に比べると信仰心が薄れてきているというのが、額田の地域でも感じられた。しかし、これが本当に額田という地域だけの特徴なのか、そうではないのか、今回の調査では明らかにすることができなかった。信仰心が薄れていない地域が日本にあるのか、どういった方法でそれを成し遂げているのか、調べる機会があれば、より深い学びに繋がると感じた。

最後になったが、今回の活動で、額田という地域を通して、日本の文化を再認識することができて良かったと思う。

今後、20年、30年後には寺と地域の関係がどうなっているのか、興味は尽きない。



活動内容

8/17	a. m.	日本人学生集合→少林禅寺へ！
	p. m.	台湾人学生集合→少林禅寺へ→歓迎会
	感想	こうした交流会は初めての経験だったので緊張していましたが、とても楽しく過ごせました。座禅体験30分は思っていたよりも短かったので、今後機会があればもう少し長くやりたいです。 (うえ)
8/18	a. m.	流し素麺準備
	p. m.	剣道教室
	感想	今日は本当にたくさんの物を習いました。皆と流し素麺の竹を作って、面白いと思います。男の人たちが竹を選んで切って、私は見て、かっこいいなあーと思いました。皆と一緒に竹を作って、一緒にめんを食べて、凄く楽しかったです。 台湾で一回大学の剣道教室へ見学にいきました。その時の雰囲気と日本の違いです。日本の方はもっと厳しいと思います。そして、皆は子供なのに、氣勢は台湾の大学生より強いと思います。本当に凄いです。 (淳子)
8/19	a. m.	ししがき保全ボランティアの体験
	p. m.	間伐ボランティアの体験
	感想	朝早くから、体力仕事！！みんな、とっても疲れたと思いますが、最後まで頑張っていました。ししがきを作るボランティア、間伐のボランティア共に珍しい体験ができて、台湾人だけではなく、日本人にもいい経験になりました！！ (ひらっち)
9/20	a. m.	グループ MT・昼食準備
	p. m.	地域の御老人と懇談
	感想	お年寄りのみなさんは元気で、私よりご飯を食べるのが早い。皆は優しいし、相談の時に色々学びました。お坊さんは、思っていたのと全然違う。住職も優しい。台湾のお坊さんは厳粛な感じがある。皆さんは優しい！！ (アオイ)
8/21	a. m.	発表会準備
	p. m.	発表会・送別会
	感想	今日は発表会ですから、昨日の晩一時間だけしか寝ませんでした。とても疲れて、眠かったが、完成しなければなりません。発表の時とても緊張していて、動機の部分を一つ言えなかった。そのあとの送別会では、ビデオをみて、みんな別々に感想しました、とても感動しました。 (マニー)
8/22	a. m.	本宿駅で解散
	感想	荷物を片付けた後、お世話になった場所の掃除。和室・トイレ・風呂・いろり部屋 etc、「来たときよりも美しく」をモットーにお世話になった感謝の気持ちを込めて…。 沢山の思い出一杯の6日間、後ろ髪を引かれて額田の街や、皆とのお別れです。参加者全員怪我もなく、無事に交流が終了しました。 次回また皆様とお会いできますように。 (わっこ)

寺と地域の関わりグループ

メンバー

- ひらっち
- わっこ
- うえさま
- アオイ
- 淳子
- マニー



動機・目的

- 今と昔の違い
- 台湾から見た、日本のお寺



仮説



- ・ 今と昔では、お坊さんのタイプが異なる？
- ・ 今と昔では、寺と地域の関わり方が違う？

お寺について

- 少林禅寺の歴史
- 600年以上の歴史



- ・ お寺と地域の関わりは、昔と今違いますか？
- 昔⇒老若男女を問わず皆様がお寺に来られました。
- 今⇒若い人はほとんど来られないです。



額田の人への質問

- Q. 生活の中で、お寺との関わりはありますか？
- A. お盆・正月・彼岸などの年中行事に行く。

- Q. もし自分の子供がお坊さんになりたいと言ったら・・・？

- A. 「本当にになりたいなら、良いと思う」



まとめ



- この額田の地域では、伝統を大切にしてお寺と関わっている人が多い
- 若い人達はお寺とあまり関わらない
- 自分の子供がお坊さんになることに対して否定的な人は少ない。
- 檀家制度 ⇒ **台湾には無い!!**
- 日本の僧侶は結婚できる
⇒ **台湾は結婚できない!!**
- 住んでいる地域や年代によってお寺との関わり方が違う

改善点

- 全ての世代の人に「寺」本来の形を知ってもらう
- 若者に興味を持ってもらうイベント等の開催



活動の感想（台湾の学生）

- ししがき（マニー）
日本の森は台湾のより高いと思います。最初見た時、もののけ姫をすぐ思い出しました。そして最近壊されたししがきは、猪がぶちあたっていることを知ったとき、びっくりしました。ししがきを守る仕事は大変でしたが、皆一緒にししがきを守ることは楽しかった。
- 間伐（アオイ）
間伐に参加してとても嬉しかったです。木が好きなので、そんなに距離が無いところで、大自然と一緒に居られることに感動しました。
間伐は確かに環境を守るために必要なことだと知り、そんなに意義がある活動を体験できて良かったと思います。今台湾で間伐があるのにか聞いたことがないです。この活動は、台湾もしたら良いと思います。
- お坊さんの話（淳子）
いろいろな話を聞いて、勉強して、私は「檀家制度」が一番面白いと思います。台湾と全然違います。台湾では廟とお寺で神様がたくさんいます。全部一緒に線香を持って参拝します。
お寺と廟の建物も同じようなものがありますが、大部分の人がこの神様はどちらのが実はよく分からないです。

寺と地域の関わりグループ



住職さんにインタビュー



はじめての間伐体験



剣道教室で...



皆でミーティング!!



6. 感想 ～活動を通して～

《人間環境大学》

ひらっち（人間環境大学）

2012年夏の交流は、自分にとっては初めてとなる、ボランティアなどの体験学習を主軸に据えた活動となった。あるテーマを選び、それについてだけ追求する活動とは異なり、額田という地域全体を知ることが出来たように思う。今回の交流を成立せる為には、地域の方をはじめとした多くの人々の協力が不可欠であった。そして、その活動の中で額田という地域の暖かさ、そして活気に触れることができたのはとても貴重な体験だった。

よしき（人間環境大学）

今回の交流会では来日から帰国までずっと台湾学生と居たので色々と感慨深いです。また今回の活動が成り立ったのには多くの人達の協力があったからで、その人達の優しさ親切さに感謝しています。今回は写真係として交流会のほとんどをカメラのファインダーを通して見ていた気がするのですが、活動中は人の笑顔が絶えることがなく明るい印象を受けました。最後は泣いている人も居て、短い活動期間の中で涙を流してしまうほど深い交流ができたのだなと思いました。

ピーター（人間環境大学）

初日、本宿駅に向かう車の中で去年の交流からもう一年たったのかと、時の流れを早く感じながらも新しい出会いを求め、今年もこの交流に参加しました。今回は去年よりメンバー全員で協力して物事に取り組むことが多く、大家族で暮らしているような感覚を味わうことができました。その中で私を支えてくれたグループのみんなに「ありがとう」と伝えたいです。この交流会に参加できたのは私の人生の大きな糧となりました。

しんぷる（人間環境大学）

気がつけば、3度目となった夏の交流。今年はついに私がリーダーとなりました。リーダーといっても、わっこさんや、ひらっちを始め、周りの人達のお世話になり助けられてばかりでした。こんな不甲斐ないリーダーでしたが、皆さん、すみませんでした。今回の交流は大自然に囲まれ、いつもとは違う「五感」を使う交流活動ができたと思います。お世話になった額田の方々にはとても感謝しています。また、今回参加したメンバーは意識の高い人が多く、行動に現れる形でそれを感じることができました。きっと、この活動は続いていくことでしょう。

わっこ（人間環境大学）

今年の交流は企画・総務的なものを担当させて頂き、私にとって例年とは違った活動となりました。いろいろとアドバイスを頂いた「北川先生」という黄門様の印籠を活用して、額田の皆様方との事前打合せ、活動当日の暖かい受け入れ、発表日の地域の皆様の来訪等、全て額田でふれあうことのできた皆様方に暖かく見守って頂けた結果だったと感じ、ただ「感謝」の一言につかない活動となったと考えています。ただ、活動内容には多くの反省点もありますが、この感動を次につないで行くことができると良いな～って思っています。

まい（人間環境大学）

今回初参加で最初は不安だらけでした。しかし沢山の事を経験する事ができ、本当に参加してよかったです。生きがいという、とても大きく広いテーマでしたが、額田の人々や台湾の皆が行ったインタビューを通して、学ぶべきことが多い面白いテーマだったと感じました。また台湾の皆の努力家な面には驚かされ、私も頑張らねばと良いきっかけにもなりました。短い期間でしたが、本当に楽しく、充実した時間を過ごす事が出来たと思います。

アトム（人間環境大学）

交流前に僕は自然体でみんなと喋れる様にしようと思っていました。実際はずっと緊張しっぱなしで、僕の思うとおりに話せませんでした。それが心残りなので、次もっと心を開けるようにします。でもそうしようと思うと、怖くなります。今後の課題はその怖くなる原因を突き止めて克服していきたいです。集団行動が下手なのが自然体でないのに関係がある気がします。そのせいでコミュニケーションが上手に図れないからです。交流を通じて以上のことを主に感じました。

カカ（人間環境大学）

今回の交流会でいろいろな活動に参加しました。始めてやるので、その中でたくさん経験を学びました。台湾の学生や日本の学生と友達になって、たくさん台湾と日本の文化を学んで、交流しました。疲れたけれども、皆さんと楽しく過ごしました。また台日交流会に参加したいです。交流会で日本語の勉強もできました。私にとって、本当にいい機会だと思います。

《九州産業大学》

ふみか（九州産業大学）

今回で4回目の交流会参加ですが、今回も勉強になることがたくさんありいい経験になりました。精神教育というテーマで様々な人にインタビューをして思ったことは、人は人と関わることで成長し、それは子供でもお年寄りでも変わらないということです。なので、この交流会のメンバーや先生方、お世話になった額田の人々との出会いが、私に新しい刺激を与えてくれてこれからの成長の糧となると思います。短い期間だったけど、みんなと一緒に活動ができて本当に楽しかったです。

《東京女子大学》

ヘンリー（東京女子大学）

初参加。不安だらけだったが、終わる頃には忘れていた位楽しかった。台湾の皆の伝えようとするパワーに圧倒された。間違いを怖れず、一心に進む姿勢を忘れていないかと自省させられる程だった。互いに理解しあえた時は本当に嬉しかった。地域活動への参加もよかった。現場の熱意を肌で感じられた。熱意の源は一重に土地への愛情だと思う。好きなものへの熱意一つで活動は生まれていくのだと実感した。私たちの交流も、また皆と活動したい！という熱意一つに次も良いものにできたらいいと思う。本当に楽しい夏だった。大家、謝謝。

うえちゃん（東京女子大学）

台日交流会というものに初参加だった故、どのようなものかと緊張していました。結果、参加して良かったと心から思っています。当初心配していた言語の壁はほとんどありませんでした。むしろこちらが学ぶことの方が多かったように思います。また、グループ課題が寺と地域という難しいテーマだったのですが、両国に宗教への違いが浮き彫りになり、より一層深く知りたいと今後の一步に繋がる活動になりました。

《桃山学院大学》

ゆい（桃山学院大学）

今回の台日交流は四回目でした。いままでの交流と違って、少林禅寺で合宿しました。日本の山の中でいろいろな体験をして、額田近所の住民たちと交流して、とても貴重な体験をしました！特に今回のテーマはボランティアで、訪問先の人たちにボランティアについて聞きました。皆さんは自身の周りに対して、とても関心します。私が皆さんと話して、いろいろなことを考えました。例えば、朗進大学の老人たちは勉強をしながら町のボランティアをします。勉強だけじゃなくて、社会にも貢献があります。私がそれを見て、自分も周りにもっと関心を持たないといけませんと思います。これからも頑張ります！

《東海大学》

こくけん（東海大学）

今回の活動はいっぱい体験があった。色々な台湾で習わないことをもらった。本当によかった。それで初めてリーダーになった、今までまだ不器用なので、でももういっぱい経験をもらった、その感じが良いです。また、来年の春キャンプ、この活動を後輩に続けてあげましょう。

ビッキー（東海大学）

今回の活動に参加して、本当によかったです。日本へ行く前に、楽しみにしてしながら、ずっと自分ができるかどうか、心配していました。でも直接日本方との交流を体験して、自分の予想よりもっと面白かったです。そして、私もできるほどに頑張りました。活動中にいろいろなことを、日本方に優しく教えてもらいました。一緒に楽しく過ごした日は少ないですが、メンバーたちはもういい友達になりました。それは一番嬉しいことです。皆さん、ありがとうございました！

みい（東海大学）

今回の交流活動の中にいろいろなことを学びました。初めておにぎりを作って、納豆とか流し素麺とかを食べました。本当に新しい体験だと思いました。そしてお寺で布団で寝たのもいい体験でした！みんな一緒に大きな和室に寝たのは校外教育のときに高校の友達とホテルで寝たのを似ましたね！とても懐かしいね！そして間伐が一番忘れなかった経験でした。間伐は台湾で珍しいことですから、普通のときに間伐することを見たいのができません。今回日本に行ったときに間伐ができるのは本当にうれしいと思いました！

天（東海大学）

今回の台日交流キャンプからいろいろな初めてのことをもらって、本当にうれしかったです。台湾と日本の文化は似ていることもある、全然ちがうこともある、とても面白いと思います！交流キャンプのみなさんはとても優しく、親切です。いつもお迷惑をかけまして、でもみなさんに助けてもらいました。いつも感動しました。来年台湾で春の交流キャンプに参加したいです！

マニー（東海大学）

今回の台日交流会はとても疲れて楽しかったです。私のチームはお寺のグループでした。五日の活動で、いろいろ教えてもらいました。例えば、日本のお坊さんは結婚できますが、台湾ではできません。ほかのテーマの常識もたくさんもらいました。そして、一番嬉しかったのは日本人たちに友達になったことです。私は一年生なので、使える言葉が少ないですが、体を使えば日本人もわかると思います。皆で一緒にご飯を作ったり、インタビューをしたり、相談したり、お寺を綺麗にしたこと、全部のこと素晴らしいと思います。次の活動はもう一度参加したいです！

アオイ（東海大学）

今回この活動に参加して、様々な台湾と違う文化を習って、見なかった事を体験したのが面白いと思います。自分の日本語が上手じゃないですが、皆は優しく、私に分からない所を簡単な言葉でゆっくり教えてもらいました。本当に感謝しました。活動の時間は一週間ですが、皆の絆は強くなりました。交流について、コミュニケーションとか、皆と一緒に遊ぶことだけじゃなくて、大切なものは、人々の心を理解できることだと思います。ですから、日本に来て、皆に会って、よかったと思います！！^^

シバ（東海大学）

初めて友達と一緒に日本へ来て、緊張していました。日本語が下手で、頭がよくないので、全然駄目な状況で、日本へ来ました。でも、日本の皆がとても一生懸命に活動を行ってくれました。超感動でした。そして、日本の皆と友達になったことが超嬉しかったです。皆性格がいろいろあります、たとえば迷い易い人、あるいは変体、そんなみんなが超好き。ですが、皆はルーガンが大好きなのです。今回の台日キャンプは本当にいろんな体験をし、様々な経験を得る事ができました。皆に超感謝です！ぜひ、愛知県のいっぱい山と面白い皆を見に行きます！

みなみ（東海大学）

今年の夏休みは、それは友達と初めて台日キャンプに参加しました。そして名古屋へ行きました。交流で一番印象が残ったのは、皆で一緒に竹で素麺の通路を作って、そして、水で素麺を流して、皆は通路の両側で素麺を食べました。本当に良い経験ができました。今度の交流は本当に嬉しかった。見た世界が思ったよりも、ずーと広く感じました。友達もできたし、いろんな経験もできたし、本当に日本に来てよかったと思います。チャンスがあったらまた色々な生活を味わおうと思いました。皆さん、本当にありがとうございます！o(^▽^)o

淳子（東海大学）

私が日本へ行くことは初めてでした。活動に参加して、色々な文化を習ってもらいました。流し素麺の食べ方からお寺が住民にの意味まで、全部日本からもらった素晴らしい文化です。本当にずっと「交流」このものをしていました。忙しかったですが、心に新しい経験がいっぱいあります。ですから、たくさんの感謝と感動があります。でも、私も春の活動についてのことを心配します。（笑）日本の皆さん、どうもありがとうございました！お疲れ様でした！！

《教員から～》

QP 先生（人間環境大学）

～若者のパワーを実感しました～

今年は、「若者はすごい！」と感じました。（わっこさんも若者の仲間です。フフ）特にすごさを感じたのは次の2点です。

1. 「学生主体」の実践

今年は、一部の教員が学会等で十分参加できず、企画・実践のほとんどを学生が行いました。

教員が口を出さなかったことがよかったのか、今年の学生たちが「力を合わせてがんばろう」という気持ちが強かったのか、リーダーグループがすばらしい人格の持ち主だったからなのか、とにかく学校では見られない「カッコいい」「頼もしい」学生像が見られて、教員として幸せを感じました。

2. 地域の人たち、特に人生の先輩の方々が「若者との交流」を心から喜んでくれていることがわかりました。

高価なごちそうなどなくても、みなさんの一生懸命な姿勢に出会えて、お年寄りたちもとっても交流はいい思い出になったと思います。みなさんと交流できて、10年は若返ったと思いますよ。

みなさんのパワーがひとつにまとまって、感動の夏が完成したのだと思います。すばらしかったよ。

はなちゃん先生（人間環境大学）

500円！

みなさん！ この数字を覚えていますか？

今年の交流であまりに衝撃的だったこの数字！

間伐ボランティアの方によると、30年という長い間丹精込めて育てた「檜」（5メートル程度に育った檜）の、現在の価格が、たったの「500円」だということでした。新聞やテレビで日本の森林や林業の事情は報道されていますが、こんなにリアルな数字はお目にかかったことがありませんでした。この数字は、実際に自分の目で見ること・肌で感じることの大切さを改めて思いました。

この台湾と日本の大学で学ぶ学生が一緒に活動するというこの交流も、同じなのではないでしょうか？ とにかく一緒に何かをしてみる。悩んだり、考えたりするよりも、見

て、聴いて、話して、とにかく try してみれば、何かが始まる。と思うのです。そして、経験に勝るものはありません。

今年の、例年より盛りだくさんの初めての経験のなかで、自分の目で、そして肌で何かを感じたことは、もしかしたら言葉にできないものもあったのかも知れません。しかし、きっとあなたがたのなかに何かが培われていると思います。だから、それを糧にしてひたすら前へ前へと進んで行って下さい。

梅ちゃん先生（愛知大学）

みなさん、こんにちは。初めてこの台日交流プログラムに参加して、とても楽しかったです。気持ちの良い山の風や、星空も素敵でしたが、みなさんの楽しそうな笑顔がもっと素敵でした。半年間の FACEBOOK や SKYPE での話し合いの結果が、この短い時間に凝縮されるので、一生懸命になれるんですね。うちの学生に話したら、みな羨ましそうでした。今度は参加させてもらえるといいなと思っています。最後にアドバイスですが、事前の調べ学習をもっと深めると、さらに発表が充実するのではないかと思います。次回のプログラムに期待します！

せっちちゃん先生（東海大学）

～「お世話になりました！」～

今回は岡崎市の額田という地域にお邪魔して地域の方々のお話を聞いたり、間伐やしし垣の石積み体験させていただくという貴重な経験をしました。グループを組み、テーマを決めて調べるというこれまでの活動とは少し違う活動のあり方だったと思います。私は活動開始から2日間いなかったので活動の全体がわかりませんが、これまでとは少し違った今年の活動で皆さんはどんなことを学んだのかを知りたいです。新しく参加された方の感想も聞きたいです。一方で、東海大学の学生にとって人間環境大、東京女子大の皆さんと寝食を共にするという合宿では、毎年のことながら得難い体験ができたのではないのでしょうか。特に、安い経費で合宿をするために、わっこさんをはじめ、シンプル、ピーター、大村さんには、食糧の買い出し、車で送り迎え等大変お世話になりました。布団の手配も大変だったと思います。本当にありがとうございました。



おじいさんたちの車。皆さん、こういうマークをつけて車に乗っています。

今回の合宿での皆さんがどのようなことを学んだのかは、報告集を読ませてもらうとして、私自身は今回、地域の方々にお話を伺う中で、過疎の問題を考える機会になりました。私自身、過疎の村の生まれですが、昔は都市に近いところにこのような過疎の現象はなかったと思いますけど、最近は都市に近いところでも空き家が目立ったり、生活に不便な状況がどんどん生まれています。環境の問題もたくさんあります。額田の人々を私たちに紹介してくださった北川先生の活動ももっと知る必要があると思いました。

それから、もう一つは、日本の皆さんが台湾に来て合宿をしながらこうした地域の方々にお話をうかがう機会をどのように台湾でも実現できるかを考えているところです。今回は住職さんのご厚意でお寺に寝泊りさせていただきましたが、このようなことが台湾でもできたらいいなあと思っています。

ところで、最後の日には合宿で私たちが飲み食いしたゴミがたくさん出ましたが、あのゴミがどのように処理されたか、皆さんはご存知ですか。合宿の中で食事作りだけではなく、後片付け、掃除、そしてゴミをどのように処理するのかを知ることも大事な勉強だと思います。

今後はこうしたことも含めてみなさんが活動が続けていけるように私ができることをやっていきたいです。来年はまた台湾で会いましょう。



帰りに寄った人間環境大学の壁に貼ってあったポスター

松永先生（東海大学）

～2012年台日夏交流を振り返って～

2012年8月17日から22日までの6日間、台日夏交流（岡崎ツアー）に参加させていただいた。初参加だった昨年の岡崎・浜松の市街地域での活動とは異なり、今回は岡崎の山間の地域、額田にじっくりと滞在し、地域コミュニティの形成に関わる方々の活動に加えていただき、またお話をうかがうことができた。

少し私個人の「コミュニティ」との関わりを振り返ってみたい。私は、幼少より核家族の家庭で地方都市の工業地帯のベッドタウンとして造成された新興住宅地で育ち、高校卒業以降は大都市部郊外の大学街で一人暮らし、また沿海部アジアのグローバルシティ（マニラ、台中等）で移住者として暮らしてきた。数世代にわたり地元との関わりが続いていくというような環境に接したこともなく、かといって「新住民」として地元社会に加わり新しい関係を築くというようなこともなく、地域コミュニティという活動空間に対してはつねに外部的な位置取りをしてきたように思う。

台湾で暮らすようになってからはさまざまな縁があり、コミュニティについて考えたり、実際にコミュニティを訪問したりする機会が増えてきた。ショッピングモールの商店主で構成される委員会、ベトナム出身の配偶者と家族の集まり、日本統治時代に日本語教育を経験した方々が集まる日本語講座、キリスト教徒の互助組織、在台日本人の集まり、外国籍住民との協働に取り組むNGO/NPO、震災復興コミュニティなど、台湾のさまざまなコミュニティに接してきた。同時に、台湾からの「訪問者」として日本各地（阪神地域や東海地域、あるいは出身の山陽地域）のコミュニティの方々と交流する機会も得てきた。おかげでようやく「顔の見える関係」とか「コミュニティ形成」「互酬」といった用語を少しだけ実践的に感じることもできるようになった。

今回の夏交流では、少林禅寺、宮崎小学校剣道教室、万足平を考える会、みまもり隊、額田朗進大学、といったコミュニティ活動に接し、これまでのコミュニティとの関わりで感じてきたことをさらに深く考える機会を得た。教わったことは多くあったが、以下、キ

一ワード的に3点述べてみたい。

「共有すること」のさまざまな意味：

お会いした方々が異口同音におっしゃっていたのは、「仲間の大切さ」「他人のために、というよりも自分が好きだから、自分にも得るものがあるという気持ち」「次世代への継承が大切」ということであった。活動の場の共有、時間の共有、活動の結果得るものの共有、あるいは目に見える結果を早急には求めないという考え方の共有。仲間がいなければ活動にはならないし、新しい世代がいなければ活動は継承されないし、そういう風に考えていけば自分が何かを「やってあげている」のではない、という心持ちになっていくのだろう。

経済性とか、費用対効果といった価値が求められることの多い私たちの暮らしのなかで、「共有する」感覚はますます希少なものとなってきたのかもしれない。

「キーパーソン」の重要性：

そのコミュニティに集う一人一人がそれぞれにかけがえのない存在であるのはもちろんであるが、コミュニティ内で人と人を結びつける、そのきっかけ（契機）を作るような人物、コミュニティの中でリーダー役を買って出るような人物はやはり重要であろう。また、個々のコミュニティをつなぐような存在、集団間の関係を新たに作る「結節点」となるような人物、今回のツアーでいえば、北川先生のような存在はさらに大きい。

人を育てる場所として大学があるのならば、キーパーソン的人材の育成ということも、その大きな目標のひとつとなる。大学間の交流を通してさらには地域ともつながろうとするこの台日交流の企図するものも、実は、「結びつくことへの気付き」からはじまる人材の育成、なのかもしれない。

「コミュニティ・センター」の存在意義：

人と人のつながりが大切だとすれば、人と人が集う「場所」も大切である。宮崎小学校や少林禅寺は、こうした場「コミュニティ・センター」として機能を果たしているといえる。うかがったところ、額田には多くの禅寺・お寺があるという。また、旧額田町時代（現在は岡崎市に編成）の「町史」をひもとくと、江戸期の寺子屋、明治の学制施行直後の学校建設など、地域の拠点としての教育施設の存在も見えてくる。

コミュニティがさまざまな人たちにとって欠かせないものである、ということを実感できた今回のツアーであった。しかし、コミュニティの持つ魅力も、あるいはコミュニティの継続や変化で生じる問題も、まだまだ分からないことが多い。また、私も含め、参加者のなかには自分が関わり得るような場所・コミュニティをまだ見つけられていないという者もいるだろう。コミュニティ的なものの意味や価値をさらに理解し実感するためにも、

1. 額田の皆さんとの交流をこれからも続けていく、
2. 台湾各地にも額田と同じような「場」や「人」や「グループ」があるのか調べてみて、出かけて行ってお会いする、お話をうかがう、
3. 額田と台中の人たちを結びつける役割を果たす、といったことを少しずつ続けていき、今回の出会いを「点」から「線」に「面」にしていければと思う。

参加学生へ

活動や交流への真剣な取り組み、掃除や食事当番、地域の方々への挨拶など基本的なコミュニケーション態度など、初めてのことも多いなかでがんばっていた姿が印象に残る。はじめは少しぎこちなく、しかし徐々に関係が密接になっていく様子を間近で見て、あらためて若い人たちの軽やかな感性や可能性を感じた。発表会で、実体験した者からしか出てこないような「はっとさせられるような」感想、コメントが聞かれたことはすばらしいと思う。一方で、与えられた時間で自分の考えを十分に伝えることの難しさや大変さを感じることもできたはずだ。聞きにきてくださった大勢の方々にきちんと感謝の言葉を伝えてほしい。今後、人前で自分の意見を述べる機会は確実に増える。このような経験の場を今後も大切にしてほしい。

あらためまして・・・

少林禅寺のおかみさん、ご住職、宮崎小学校剣道教室の皆さん、万足平を考える会の皆さん、みまもり隊の皆さん、額田朗進大学の皆さん、北川先生、今回も本当に多くの方々にお会いすることができました。

剣の道を地域で伝えることの意味、地域の農業、食文化を守るための猪垣の石積みの技術を残し伝えていくための地道な活動、水と山を守るため木を切り森を残すという考え方、ご自身の長い経験を地域に伝える老人クラブの活動と役割、お寺の在り方・役割・仏の道、人と人をつなぐことの重要性・・・

普段何気なく見ていた山や町・街の、その存続や発展のために、実に多くの「技術」「技」「精神」が集められ継承されているということを教えていただきました。

最終日に午後に少林禅寺で行われた成果発表会にも多くご参集いただきました。本当にありがとうございました。今後とも末永くおつきあいをさせていただければと思っております。

追記：

文野先生、花井先生には今回のツアーにも加えていただき感謝。大村さんにも感謝です。梅田先生にはツアー後、大学をご案内していただき、新たな交流の輪が広がりました、多谢。同僚で大先輩の工藤さんにも感謝。そして、今回のツアーでフル回転だった宮崎和子さんにも感謝。



僕はアサヒです！
パパと一緒に参加した
かったのに…
今回は台湾で留守番
していたんだ～



台日交流2012夏

気づいたこと・感じたこと

東海大学日本語文化学系

松永稔也 まつながとしや
アサヒパパ

もくじ

1. 教わったこと

1. Share 共有する
2. 人
3. 場
4. 点・線・面
2. 「知ること」を続けていこう
3. ありがとうございます
4. おまけの話

2012年夏 お会いした方々

- ・ 宮崎小学校剣道教室の皆さん
- ・ 万足平を考える会の皆さん
- ・ みまもり隊の皆さん
- ・ 額田朗進大学の皆さん
- ・ 少林禅寺の皆さん

それから……

- ・ 犬たち
- ・ 虫たち



1-1. 教わったこと

Share
共有する

- ・ 仲間
一緒に活動をする仲間がいること
→仲間を増やしたい
→続けていくこと
- ・ 他の人のためにという意識ではなくて
→自分が好きだから
→自分も一緒に鍛錬している・学んでいる
という気持ち
- ・ 世代間の交わり
技術・心・気持ちの継承
万足平猪垣を考える会会長さん「若い頃出かけていった
先でいろいろな方に良くしていただいた。今度は我々が
次の世代にやってあげないと、と思ってね」

1-2. 教わったこと

人

キーパーソン (key person) の重要性

- 人與人・集団間
- ・ 関係を新たに作る
- ・ きっかけ(契機(けいき))を作る
- ・ 結びつける、「結節点(けっせつてん)」

そのような人物

例えば、... 北川先生のような存在

key word: 人的資本, 社会関係資本

1-3. 教わったこと

場

コミュニティセンター (community center)
地域の拠点・中心となるような場

- 人と人・集団間
- ・ 関係を新たに作る
 - ・ きっかけ(契機(けいき))を作る
 - ・ 結びつける, 「結節点(けっせつてん)」
になるような場・場所・空間

例えば... 宮崎小学校や少林禅寺のような

1-4. 教わったこと

点・線・面

私たちは今回, 多くの方々とお会いし, 人生・
経験・目指していること, などを伺いました。

この出会いを一度つきり(一回だけ, 最初で最
後, の)「点」ではなく, 「線」に「面」に(続け
ていく)していきたい, ですね。

1-5. 教わったこと

点・線・面

例えば....

1. 額田の皆さんとの交流をこれからも続けていく
2. 台湾台中にも額田と同じような「場」や「人」や「グ
ループ」があるのか調べてみる
→ 出かけて行ってお会いする, お話を伺う
3. 額田と台中の人たちを結びつける役割を果たす
なんてことができれば, いいですね

2-1. 「知ること」を続けていこう

- ・ 知りたいことがあった
- ・ 調べた・お話を聞いた
→ 知った, 判った
- 知識が増えた
- とても素晴らしいことです。
- それに加えて....

2-2. 「知ること」を続けていこう

- ・ 知った事柄から新しい「問い」「疑問」が生まれること
→ 「問いの深化」
- ・ 知った事柄に対して自分なり(自分の方法で)の「意
味付け」「解釈」「名付け」を行うこと
→ 「理論化」

これが大切!

→ 卒業論文や専門研究でも, このプロセス(過程)が
重要になりますね

3. ありがとうございました

額田の皆様

剣の道, 石の運び方・積み方, 水と山の守るための木
の切り方, 老人クラブの活動と役割, お寺の在り方・
役割・仏の道...

普段何気なく見ている山や町・街の, その存続のため
に, 実に多くの「技術」「技」「精神」があることを教え
ていただきました。

本当にありがとうございました。

今後とも末永い交流を続けさせていただけることを願っ
ております。

4-1. おまけの話

- じゃあ、私(松永)は何を見たのか？考えたのか

その街に新しくやって来た人たち
外国から日本にやって来た人たち
日本語を母語として使っていない人たち

いろいろな立場の人たちのための言語情報



地域の人たちがいつも使っている表現
「とよみしょうがっこう」
「じしん」
「ひなんしょ」などが使われていることはとても重要
Elementary School
→Shogakko

緊急の時
いろいろな立場の人たちが安全を確保できるために、どんな準備がおこなわれていますか？



4-2. おまけの話

- いろいろな立場や出自を持つ人たちが、「より良く暮らせる」ようにするためには、コスト(お金や資源)がかかります。

→ 経済中心主義から見れば、このような情報・活動への補助は削減されてしまうかもしれない

けれど...

- 額田では、いろいろな人たちがそれぞれの観点から工夫をして、「暮らしやすい街」をつくろうと努力されているのだから、と感じました。

ご挨拶

このたびは本当にありがとうございました。
これからもよろしくお願いいたします
そして...今度は台湾でお会いしましょう



• 犬たちも交流しましょうね

